

<公益財団法人全国法人会総連合会長賞>

## 税の『活かし方』

喜多方市立塩川中学校

3年 関本 悠太郎

「欲しい物があるんだけど・・・。」

と要求する僕に対し、母は、

「税金を納めなければならないから無理。」

と、お決まりのこの台詞でばっさりと切り捨てる。僕の要求は、毎度ながら税金の支払いによって儚く消えてしまうのだ。そして、ふてくされた僕の態度に見兼ねた母は、

「もう中学生なんだから、文句を言う前に税金についてしっかり学習しなさい！」

と、言い放った。腑に落ちない気持ちを抑え、渋々調べてみることにした。

僕達が健康で豊かな生活を送るために、国や地方公共団体は、様々な公共施設や公的サービスを提供している。そのためには多くの費用が必要であり、その費用をみんなで出し合って負担しているのが税金である。学校、病院、公園、図書館、道路など、僕達は普段から様々な公共施設を利用し、また公的サービスに支えられながら生活しているのだ。税金がこんなにも暮らしに密接に関わり合っていたと知り、僕は驚嘆した。同時に、もしも税金がなかったら、公共サービスを受けるのに全ての費用を個人で負担しなければならず、生活を脅かす程の危機的な状況に陥ってしまうだろうと不安を感じた。そう考えると、税金こそが、この国の平和の礎を築いているのかもしれないと思えた。平和とは正に、国民一人一人が築き上げる尊いものだと感じた。

しかし一方では、故意に税金を滞納したり、納税額を偽ったりする人なども存在するのだ。また、国や地方公共団体に対し、「税金泥棒！」や「税金の無駄遣いだ！」などと批判する人達も多く、税金の在り方が承知されていない事実に対し、残念に思う。

僕は以前、子ども議会に参加した時のことを思い出した。住民の要求に対し、様々な議論が繰り返され、直面する問題に真剣に向き合っている誠意が伝わってきた。僕は、その時の神聖な議場での光景を思い出し、

「住民のより良い暮らしのために、税金の使われ方も真剣に議論されているのだろう。」

と思った。だから、住民の一人である僕達は、批判的な意見に簡単に同調してしまうのではなく、税金の使われ方をしっかりと認識し、自分の意見を確立させなければならないのだ。

国民の義務である納税。そして、その税金によって支えられている国家。安定した国家が成立してこそ、豊かな未来が訪れるのだ。今後日本は、超高齢化社会を迎えると予想され、社会保障制度にも大きな影響を与えるだろう。同時に少子化も進み、労働力人口の減少も懸念される。さらには、近年相次ぐ自然災害も深刻な問題となっている。日本を取り巻く環境に不安が募る今だからこそ、税の役割をしっかりと理解し、税の「活かし方」を真剣に考えなければならない。遠い昔から受け継がれてきた相互扶助の精神を大切に守り、国家と国民とが互いに最良の関係を保ちながら明るい未来を切り開いていきたいと思う。